

## 9 これからの獣害対策は常識を捨てることから

生産環境・安全管理研究担当 鳥獣害防除研究 古谷 益朗

### (1) ねらい

最近、野生動物による被害報道を目にする機会が多くなりました。それだけ野生動物の生活圏が身近な存在になってきたと考えてよいでしょう。では、何故このような事態になってしまったのか。そして、これから更に拡大することが予想される野生動物に対して何をすればよいのか。この早急に対応しなければならぬ問題に対しての解決策を総合的に考えます。

### (2) 研究内容

#### ア 正しい事実を知る

野生動物は、食べるものと休息場所や繁殖場所などの環境が揃わなければ生活することができません。環境調査の結果から被害が多発している地域では、無防備な田畑や廃棄野菜、放任果樹などの食べものと、荒れた山林や遊休農地などの休息場所が多く存在していることがわかりました。そして、これらの環境を作り出しているのは人の生活の変化であることもわかってきました。野生動物は、長い年月をかけて変化してきた人のくらしに対応し、そして利用しながら現在の状況を築いてきたのです。生息地は山の人々のくらしが変わって里山に広がりました。そして里山のくらしが変わって平坦地に広がりました。次はどこでしょうか。人の意識を変えなければ連鎖は続きます。

#### イ 正しい技術を知る

生息域の拡大を止めるためには、ひとりひとりが野生動物の好適環境を無くしていかなければなりません。「ここは大丈夫」といった常識は捨てる必要があります。好適環境は平坦地や市街地周辺にも多く存在します。一度入ってしまっただけで楽な生活を覚えてしまうと、定着して被害が常態化するようになります。好適環境を無くしていくためには何をすればよいのでしょうか。最初にやらなければならないのは、農作物を守ることです。農業技術研究センターでは、獣種に対応した簡易で安価、効果の高い侵入防止柵を多く開発しています。これらの柵を活用した野生動物に食べものを絶対に与えない管理が重要です。このほかに、廃棄野菜や柿などの放任果樹への対応も必要です。放任された果樹等は無意識な餌付けになります。これらの対策は生産者だけでなく市民農園や一般家庭の果樹でも行う必要があります。

### (3) 今後に向けて

野生動物の対策を進めるために最も必要なことは、係る人の意識改革です。「なぜこうなったのか」、「どうしたら防げるか」など正しい事実と正しい技術を知り共有していくことです。野生動物対策の調査研究は、比較的新しい分野ですが今後も必要とされ拡大していく分野です。当たり前と思われていた事実は日々変化しています。常に現場に目を向け小さな変化を見逃さず、求められる問題解決に対応していきます。

## イノシシ



図1 イノシシ生息確認地点

## ニホンジカ



図2 ニホンジカ生息確認地点